

NARO RESEARCH PRIZE 2016

周年放牧肥育による赤身牛肉の安定生産

小林 良次¹⁾、中村 好徳²⁾、金子 真²⁾、山田 明央³⁾ (¹九州沖縄農業研究センター 技術支援センター、²九州沖縄農業研究センター 畜産草地研究領域、³ 東北農業研究センター 畜産草地研究領域)

研究の目的・背景等

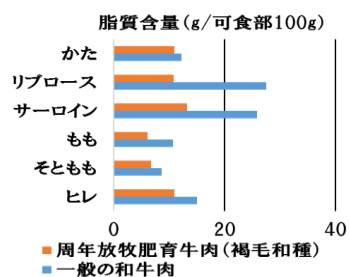
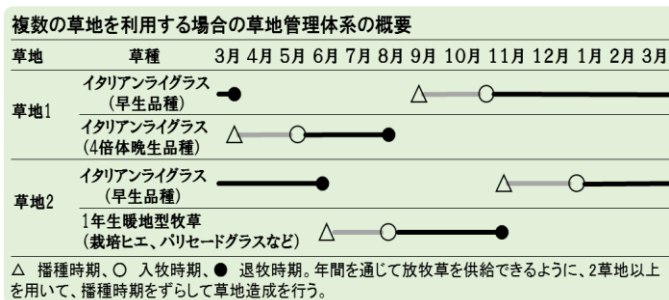
高齢化や健康志向の高まりから、近年、赤身牛肉への関心が高まっている。また、肉牛肥育経営では飼料自給率の向上や飼料作物の作付けによる耕作放棄地の増大抑制も重要な課題である。これらの課題等へ対応するには、従来は畜舎内で行う肥育方法に放牧を取り入れることが有効である。

そこで、暖地の温暖な気候を生かし、周年で牧草を育て一年を通じて肉牛を放牧で肥育する技術の開発に取り組んだ。

研究の概要

イタリアンライグラスなど放牧に適した栄養価の高い牧草を組み合わせ、草地を周年で管理する手法を確立した。この草地での放牧と補助飼料の併給により、一年を通じて放牧肥育を可能にし国産飼料100%の牛肉生産を実現した。生産された牛肉は脂肪含量が低い等の特徴をもつ良質赤身肉であった。

この成果を普及させるため、九州沖縄放牧肥育振興協議会（生産・流通・研究・行政等の48の団体会員が参加）を設立するとともに、生産技術マニュアルとレシピブックをそれぞれ刊行し、生産・消費の両面から普及を進めている。



中村好徳 山田明央 小林良次 金子真



九州沖縄放牧肥育振興協議会 (設立総会)